

土佐教育研究会

土 佐

No.148 2021.3

(ホームページ掲載)

《算数・数学会》 令和2年度高知県算数数学教育研究（土佐市）大会

1. 研究主題 「創造的に活動し、創造的に表現する子どもの育成をめざして」
2. 期 日 令和2年10月30日（金）
3. 会 場 小学校部会・全体会…土佐市立高岡第一小学校
中学校部会…土佐市立土佐南中学校

4. 討議内容

【小学校部会】

学年	単元名	授業者	指導・助言者
1	ひきざん	速渡 恵理	小松 和久 土佐市立高岡第二小学校
2	かけ算	濱岡 真実	小笠原 登 元 土佐市教育研究所長
3	小数	佐藤 哲也	古谷 仁 須崎市立上分小学校
4	分数を詳しく調べよう	池 恵津子	千光士 亜子 高知県教育委員会中部教育事務所
5	面積の求め方を考えよう	溝淵 美優	藤田 究 高知市教育委員会学力向上スーパーバイザー
6	並べ方と組み合わせ方	鳴尾 良介	鍵本 治彦 高知市立泉野小学校
ひまわり	生活単元学習 「さつまいもを売ってお店ヘレッツゴー！」	武田 典子	藤田 和佐子 高知県日高特別支援学校

【中学校部会】

学年	単元名	授業者	指導・助言者
2	図形の性質と合同	田村 元気	濱田 淳一 元嶺北中学校 指導教諭

5. 講演

演題 「新学習指導要領が目指す 算数・数学科の授業改善の方向性」
講師 服部 裕一郎（高知大学 教育学部）

6. 大会を終えて

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年行ってきた夏の算数セミナーや中国・四国大会、支部合同研究発表会など様々な学習会や大会が中止となった。その中で、令和2年度高知県算数数学教育大会を土佐市立高岡第一小学校、土佐市立土佐南中学校の2校に引き受けていただき、無事開催することができた。高岡第一小学校には、考えを表現し、高め合う子どもを育てるための授業について提案をしていただいた。教材との出合わせ方を工夫し、「問い」を生じさせ、見通しをもたせ、どの子ども動き出せるようにするなど、子どもの思いや見方・考え方を軸にした授業が多く見られた。また、土佐南中学校では、創造的に活動し、創造的に表現する子どもの育成するための授業を提案していただいた。その中で、数学をつくりあげるために、生徒の思考から問いを発展的に考えることで探究的な授業に繋がることを学ばせていただいた。全体会では、高知大学の服部裕一郎先生に、新学習指導要領が目指す算数・数学教育についての授業改善の方向性についての講演をしていただいた。新学習指導要領で示されている数学的な見方・考え方の中で、発展的に考えるとどのようなことなのかを具体的な事例を基に学ばせていただいた。大会を通じて、算数・数学科として「思考力・表現力の向上」のために、教材研究や授業研究、学習指導法の改善など、教育活動の充実と改善をさらに進めていかなければならないことを互いに確認し合うことができた。

今後は、研究大会での学びを高知県の算数教育のさらなる発展につなげていかなければならない。そのため来年度については、世の中のコロナの感染状況をみながら勉強会、セミナー、大会などを開催していくが、どの状況でもあまり影響のないようWeb開催も検討し、オフライン、オンラインそれぞれの利点をいかし今年度行えなかった会を開催し、研究活動の更なる活性化を目指していきたい。

《音楽部会》

第67回 高知県音楽教育研究大会（香美・香南大会）

1. 2020年度事業報告
2020年度行事日程一覧

行 事		日 程	会 場（予定）
唱 歌	合唱の部 小学校 中学校 高等学校	8月18日（火）	高知県民文化ホール （オレンジ）
	独唱・重唱の部	9月6日（日）	丸の内高校 音楽館
器 楽	ピアノ独奏・連弾の部	8月16日（日）	丸の内高校 音楽館
	独奏・重奏・合奏の部	11月23日（月）	附属小学校・附属中学校
最優秀受賞記念演奏会		2021年1月6日（水）	高知県立美術館ホール

上記のように日程を計画し、役員の依頼をしていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、本年度の行事は全て中止となった。

2 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会員が一堂に会する研究活動を中止または縮小の方向で進めた一年となった。

令和2年3月4日、「一斉臨時休業」。4月7日、気持ちも新たに新年度がスタートしたが、わずか5日間の学校教育活動の後、再び「臨時休業」。そのような中、小学校では新しい学習指導要領がスタートし、これに伴い、教科指導は『見方・考え方』を働かせて協働的に学ぶ学習指導の在り方について研究を進めた。中学校では、来年度の完全実施に向けて、着々と準備が進められている。また、小・中・高の校種別の研究部会では、昨年の成果と課題を踏まえ、それぞれのテーマに沿って、やれることできることを明確にし、研究実践が行われた。音楽の授業を通し、自分の考えを発信し、仲間との交流から新しい考えを発見・共感・共有することで、学びを重ね深めていく。これらの深い学びが生涯にわたって音楽と豊かに関わっていく力を育てることにつながることを目指し、研究の推進に、全力を尽くしていると考えている。

来年度行われる中国・四国音楽教育研究大会（高知大会）の開催について、日々検討を重ねている。今現在も、はっきりとした見通しは持っていないが、どのような形になっても、多くの困難を乗り越えて取り組んできた研究の成果を、引き続き準備を進めていきたい。

保健体育部会

1. 研究主題・副題

子どもの心に火をつける体育授業の創造
～運動の本質的な特性や魅力に触れる楽しさを味わい、
資質・能力をバランスよく育成する指導の工夫～

2. 今年度の取組

- 5・6・7・8・10（2回）・11・12・1・2月 拡大研修部会・・・計10回
8月 第61回高知県小学校体育連盟「夏季共励会」（担当：高知小学校体育連盟）
12月 第34回高知県小学校体育研究大会（担当：土長・南国小学校体育連盟）
3月 第3回高知県小学校体育研究協議会

※その他，十津小学校授業研究会への参加（8回）

3. 研究大会

(1)研究仮説

- ①運動の本質的な特性や運動の本質的な特性や魅力を中心にした授業を展開することができれば、どの子どもも運動の楽しさや喜びを味わい、子どもの心に火をつけることができるであろう。
②資質・能力をバランスよく育成する授業をデザインすることができれば、体育に対する自信を高め、子どもの心に火をつけることができるであろう。

(2)期 日 令和2年12月1日（火）

(3)会 場 南国市立十市小学校

(4)提案授業

4年生で「小型ハードル走」の授業を公開した。仮説を立証する手立てとして、グループでの活動の工夫、タブレットを活用した話し合いの工夫、単元計画の工夫の3点を柱として実践を行った。

タブレット端末に映った自分の走り越す姿を客観的に見ることで自分のイメージとの差を見て確認することができていた。グループ同士での活動や競争は学習意欲を高め、児童が主体的に活動に参加する姿が見られた。



(5)成果と課題

学習リーダーを中心とした学び方が定着しており、アドバイスや課題を解決するための話し合いなど交流が多く、グループで活動することで、1人1人が積極的に活動していた。また、役割を果たすために責任感を持って細部まで観察できる児童が多かった。話し合う手立てとして、タブレット端末を活用することは非常に良かった。

本時の課題が達成したいと思える課題ではなく、話し合いはよくできているが本気で達成しようと話し合っている様子が見取れなかった。タブレットで撮影する場所が第1ハードルまでの区間で撮影しているグループが多かったが本時の活動では第1ハードル以降の姿を確認する方が効果的であったため、撮影場所の指示もしておく必要があった。また、タブレットでただ撮影をただけになってしまうグループがあり、どんな視点でどこから撮影するのかを明確にしてから練習を行うようにすればよかった。

単元を作成する際に用いた、授業デザインシートは単元全体を考える際に有効であったため、引き続き来年度も利用し、単元構成を考えていきたい。

土佐教育研究会 外国語・外国語活動部会

1. 研究テーマ

「グローバル化に対応した新たな英語教育を目指して」

令和2年度から、小学校で新学習指導要領が全面実施されている。これまでも小中、中高のよりよい接続のためのさまざまな実践がおこなわれてきた。これまでの成果と課題を踏まえながら、小・中・高の一貫した英語教育の充実・強化のための改善が求められる。今年度も引き続き、小中高を通じて一貫した方向での英語教育が実践できるように考え設定した。

2. 高知県英語教育研究大会

今年度はコロナ感染拡大防止のため研究大会は中止になった。来年度は香川県で大44回四国英語大会がある。第3分科会で城北中学校の英語科が「評価」をテーマに発表する。研究部長を中心に年度内に来年度に向けての打ち合わせをしている。また、小規模であるが学習会としてブッククラブやミーティングを行い、評価と指導の在り方やこれからの英語教育について校種間でも学び合えた。

3. 高知県中学校英語弁論大会

今年度はコロナ感染拡大防止のため研究大会は中止になった。

4. 成果と課題

(1) 成果

研究大会、弁論大会が中止になったが、小規模であるが学習会で学びを続けてこられたのはよかった。異校種間の交流ができたことも新しい学びにつながるものである。来年度の四国大会へ向けての打ち合わせも順調に行えている。

(2) 課題

今年度は研究大会と弁論大会は中止になったが、以下の2点は昨年度から引き続きの課題である。

① 英語教育研究大会について

小学校の実践発表なども行っているが、小学校教員の参加が極端に少ない。小中高で研究していくために参加者を増やす方法を模索している。

② 英語弁論大会について

役員の数が増えているため、運営が難しくなっているうえに、若い英語教員が増えず、弁論の参加者が減少している。高知県の中学生が英語学習の成果を発表できる貴重な機会としての使命もあるので、継続するにあたって、改善策を見つけなければいけない。弁論大会でプレゼンテーション部門を昨年度から実施しているので途切れず継続できたらなおよかった。

道 徳 部 会

- 1 研究テーマ 「よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う道徳教育の展開」
～自らを見つめ生き方を深く考える道徳科を要として～

2 今年度の取組

(1) 第54回高知県道徳教育研究大会

- 期日 令和2年10月30日(金)
○会場 【小学校会場】南国市立岡豊小学校
【中学校会場】高知市立一宮中学校
○参加者 【小学校会場】65名
【中学校会場】185名 合計：250名

【小学校会場】

○公開授業

学年・組	授業者	教材名	内容項目
1年1組	山下 和香	はしのうえのおおかみ	親切、思いやり
1年2組	藤本 哲司	くりのみ	友情、信頼
4年	大西 由夏	心と心のあく手	親切、思いやり
5年	岡崎 由記	うばわれた自由	善悪の判断、自律、自由と責任

○研究協議

学年・組	指導・助言者	司会者	記録者
第1学年分科会	東部教育事務所 大久保みどり 指導主事	津野町立中央小学校 石川 美香	岡豊小学校 山本あずさ
第4学年分科会	中部教育事務所 若林 庄司 指導主事	津野町立葉山小学校 田井 真優	岡豊小学校 中平 早紀
第5学年分科会	中部教育事務所 垣内 志帆 指導主事	香美市立舟入小学校 島内 知美	岡豊小学校 中田 百香

○研究発表 南国市立岡豊小学校 山本 由美 教諭

○講演

- 講師 高松大学発達科学部 教授 七條 正典 先生
演題 道徳科の特質を生かした「主体的・対話的で深い学び」のある授業づく

【中学校会場】

○公開授業

学年・組	授業者	教材名	内容項目
1年5組	町田 憲彦	いのちってなんだろう？	生命の尊さ
2年4組	北岡 利之	心でいただく伝統の味	我が国の伝統と文化の尊重
3年1組	矢野 孝明	私を支えてくれた言葉	友情、信頼
3年2組	土合 優歩	スマホに夢中！	節度、節制
3年3組	大久保昌与	私を支えてくれた言葉	友情、信頼
3年4組	岩松 辰彦	ハッチを開けて、知らない世界へ	感動、畏敬の念
3年5組	官本 康平	スマホに夢中！	節度、節制
特別支援	中石 淑江 江渕 心美	法やきまりを守るって？	遵法精神、公德心

○研究協議

学年・組	指導・助言者	司会者	記録者
第1学年分科会	高知市教育委員会 森岡 亮 指導主事	仁淀川町立池川中学校 鈴木 学	一宮中学校 田岡 夕梨乃
第2学年分科会	高知県教育委員会 清水 幸賢 指導主事	安芸市立安芸中学校 南 智恵	一宮中学校 徳廣 優子
第3学年分科会	高知県教育委員会 飯田 啓雅 指導主事	高知市立潮江小学校 藤川 尚司	一宮中学校 安岡 優香
特別支援分科会	高知市教育研究所 小笠原佳子 指導主事 高知市教育委員会 入江 洋 指導主事	日高村佐川町学校組合立 加茂中学校 釣井 智和	一宮中学校 江淵 心美

○研究発表 高知市立一宮中学校 井上 美智子 教諭

○講演

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦 先生
演題 「道徳科を要とする道徳教育の展開」

3 成果と課題

今年度、本来ならば「第54回全日本中学校道徳教育研究大会」が本校で開催される予定であったが中止となり「高知県道徳教育研究大会」という形で開催することとなった。

道徳部会は長年にわたり、研究テーマを「よりよく生きる力を育む道徳教育の展開」～自問し内省する道徳の授業を要として～について研究に取り組み、道徳の時間は、児童・生徒が内面において自分への問いを發し、自己内対話を深めることができるように注力することが必要であると県内外の先生方に道徳の授業とは何かを伝え、共に学んできた。

児童生徒が道徳的価値とのかかわりにおいて自分自身を見つめ、将来いかにによりよく生きるかということについて考えを深め、自らの道徳性を高めていくことができるような指導を進めることを目指し、その過程で、児童生徒が考えを深めるために問いかける対象は、教材や資料など自分の外側にあるものではなく、児童生徒自身の内側にあり、道徳の時間には、児童生徒が内面において自分への問いを發し、自己内対話を深めることができるような指導を考えるようにしてきた。

児童生徒の自己内対話の起点は、それまで当たり前と思いついてきたことや考えてみるものがなかった視点や着想、発想による問いに触れ、自分自身の在り方や考え方を問い直すことにあると考え、児童生徒が学習の過程において道徳的な問題に立ち止まり、自分への問いを抱く手掛かりは、児童生徒にとって深く考えるに足る発問の構成や他者の多面的・多角的な考え方への考察にあるだろうと考えてきた。

児童生徒が自分自身に問いを發し、自分自身の在り方や生き方を考える先に、それぞれの自分自身のよりよい生き方の追及があり、我々指導者は、児童生徒が問いを持つ授業を志向するとともに、自分自身への問いを持ち続ける児童生徒を育成する道徳授業を構想する必要があると考え、これからも研究を重ねていきたい。

特別活動（小）部会

1 研究主題

「よりよい人間関係や豊かな生活を築く特別活動の創造」

2 今年度の取り組み

- 川北小学校への研修参加
- 第7回「特別活動希望の会」Zoom ミーティング from 四国での発表・参加

3 内容

(1) 研修の協力

- ・学級活動についての研修協力

(2) 第7回「特別活動希望の会」Zoom ミーティング from 四国での発表

① 高知県安芸市立川北小学校 校長 中野博文

『誰もが生き生きと活躍できる集団の育成をめざして』

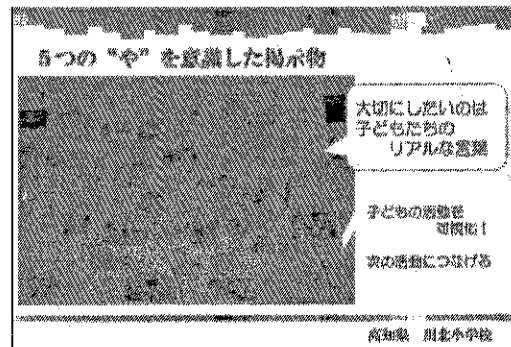
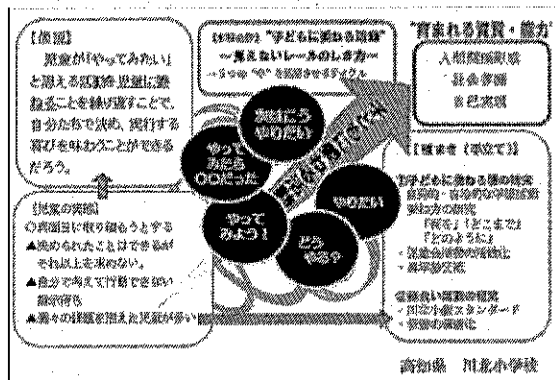
＜本校の肝＝子どもに委ねる活動 ～見えないレールのしき方～＞

＜大事にしている5つの“や”＞

「やりたい」「どうやる？」 「やってみよう」 「やってみてどうだった」 「次はこうやりたい」

＜具体的取組＞

- ・指導案を A3 一枚のシートに ・5つの“や”を大事にした掲示物で学級活動を視覚化



② 高知 土佐教育研究会特別活動部会 高知市立春野東小学校 小松朋子

『ピンチをチャンスに！子どもたちがつくる修学旅行・児童会集会活動』

＜自分たちでつくる修学旅行：高知市立初月小学校＞

コロナ禍の中、受け入れ可能な場所の中から班ごとに行き先を決めて調べ、プレゼン大会→投票で行き先を決定
旅行先でも、自分達でミッションを考え、楽しむことができた

＜自分たちでつくる児童会集会＞

密をさけながら、今できることを各学校で工夫しながら取り組んでいる



チームワークの良さ・友達の良さ・じぶんの良さを再発見することができた。

令和2年度高知県小規模・複式教育研究大会

- 1 主題 学ぶ・つながる・豊かに考える子どもを育む
～対話を通して確かな力をつける児童主体の授業構築
- 2 日時 令和2年12月2日(水) 13:30～16:50
- 3 会場 高知市立浦戸小学校

4 内容

(1) 公開授業

学級	教科	単元名
1年	国語	ことばであそぼう
2・3年	算数	2年 かけ算(2) 3年 分数
ひまわり	国語	想像を広げて物語を書こう
4・5年	算数	4年 分数をくわしく調べよう 5年 面積の求め方を考えよう
6年	国語	関連する作品を読んで推薦しよう

公開授業では、全学級の公開が行われたが、そのうち2学級が複式授業(2・3年、4・5年)であった。県内の学校では複式学級が増えており、実際の授業場面を見たいとするニーズは多い。そうしたこともあり、研究大会に多くの参加者があった。浦戸小学校は長年複式授業に取り組んでおり、質の高い授業を参観することで、参加者は複式授業を大いに学ぶことができたと思われる。

(2) 研究発表

研究発表では、主体的・対話的で深い学びを目指す「うらどベーシック」による課題解決学習の取組が報告された。校内授業研究を充実させるとともに、自分たちで学びを創っていくセルフ授業などの取組により、児童は学習に前向きに取り組み、互いに認め合い協働することができるようになったとのことであった。また、教職員は授業実践の力が付いてきたと実感しており、児童へのより良い向き合い方も身につけてきたとのことである。

(3) 講演

講演では、高知大学教職大学院・是永かな子教授より「どの子の学びも保障する授業のUD化」の演題で話をお聞きした。浦戸小の取組は、どの児童の学びも保障しており、子ども主体の授業が行われているとの講評もあった。子ども主体の授業を創っていくために、子ども同士をつなげる力とフォローする力(ほめる力)をこれからの教員に求めていきたいとのことであった。